

4490.5
正-1
4 / No. 2083

12133-1

號 四 第

i 33-1

定税
遞送 免許

每月六回發兌

明治十年五月廿八日刊行



東京不忍池畔

櫻南社

藥物學部

富士川文庫

896

F
1-103

緒
言

我國近世醫學一變シ漢ナ去テ洋ニ就ク是ニ於テカ
西洋諸家ノ新著陸續舶輸スルモノ枚舉スルニ遑ア
ラズ且遠ク海外ノ教師ヲ延キ其學術ヲ親炙研究ス
テ之ノ開明ノ鴻澤ナラズヤ然ト雖モ其地僻遠或ハ都
下ニアレドモ事業多端ノモノ又貧困ニシテ學費ニ
乏キ者皆遺感ナキヲ能ハズ因テ西洋現在諸大家
ノ說ヲ纂輯譯述シ最モ簡明切當ノモノナ采り之ニ
加ルニ皇國支那ノ說ヲ以テ凡實學ニ裨益アルモノ
擧テ遺スフナシ然ラバ則チ僻邑大都學ニ志ス者一
タビ此書ヲ繙カバ殆ド遺憾ナカルベシ先ヅ藥劑學
ヨリ始メ訓點ヲ加ヘ發兌シテ世ニ問フ諸學科ノ如
キ追次印刷スベシ此書啻ニ醫家ニ便ナルノミニ非
ズ藥舗ナ業トスルモノモ一讀シテ有益尠ナカラズ
若シ校正錯誤アラバ讀者請フコレヲ訂正セントチ
櫻南社長識

醫範新說 第四號 藥物學部

曼陀羅
タトヨラ・ストラモニウム

○曼陀羅ハ「アトロヒ子」ヨリ二倍強ク其化機的抱合
ハ全ク「アトロヒ子」ト異ナラザルチ以テ其主治云
マタコレニ同ジ昔時ハ効用ノ區別アルコトナ細

ニ試閲セザルニ依テ交換シテ用ヒ或ハ合和シテ

用ヒタリシガ近時ハ効用ノ異ルコトテ驗知ニシ

モモヒカガヒモモセヒシテ

用ヒタリシガ近時ハ効用ノ異ルコトテ驗知ニシ

モモヒカガヒモモセヒシテ

故ニ曼陀羅チ賞用七ズ萸若チ主張ス然レドモ

モモヒカガヒモモセヒシテ

陀羅ノ効力ハ神經性ノ喘息及ビ瘡撃性ノ咳嗽ニ

モモヒカガヒモモセヒシテ

對症藥トナス恐クハ肺部ニ分佈スル迷走神經ノ

モモヒカガヒモモセヒシテ

知覺支ノ刺衝機チ沉靜スルニ因テ治スルナラン

モモヒカガヒモモセヒシテ

此症ニ與ルニハ曼陀羅葉一片チ以テ小キ巻烟花

モモヒカガヒモモセヒシテ

チ造り又烟草チ以テ包被スルト心妨ナシ常ノ如

モモヒカガヒモモセヒシテ

ク吸ハシム然レトモ注意セズ多ク吸フトキハ中

モモヒカガヒモモセヒシテ

以下曼陀羅製劑チ示ス

モモヒカガヒモモセヒシテ

且ツ其度詳明ナラス昔日ハ精神錯亂ノ諸症ニ專

モモヒカガヒモモセヒシテ

用セリ近來ハ然ラス神明昏冒シテ耳邊ニ人ナキ

モモヒカガヒモモセヒシテ

ニ語アルカ如ク聞ユ眼前ニ物ナキニ在ルカ如ク

モモヒカガヒモモセヒシテ

視ル者ニノミニナル

モモヒカガヒモモセヒシテ

以下曼陀羅製劑チ示ス

モモヒカガヒモモセヒシテ

曼陀羅越幾斯方

モモヒカガヒモモセヒシテ

右新鮮ノ葉チ以テ熬剤トナス法ハ萸若越幾

モモヒカガヒモモセヒシテ

斯ド同シ

用量ハ一回六分氏ノ一乃至一ヶレンハ壹厘

三分氏ノ一ヲ一日ノ極量トス一氏半チ與ル

ドキハ定量ニ過ク故ニ上チ記ス

〔二〕曼陀羅丁幾方

曼陀羅子一分酒精十分

右丁幾法常ノ如シ浸シ曝大コト十四日

用量ハ一回十滴乃至二十滴一日三回與フ

〔三〕曼陀羅子及ヒ葉

曼陀羅子及ヒ葉

〔二〕

附錄

〔皇國名〕テウセンアサガホ ヤマナスビ
ナシバンアサガホ テヤメラサウ
キナガイナスビ バラモンサウ

内服ニハ丸散トナス外用ハ麻醉ノ蒸湯剤ト
ス
用量ハ一回ニ子ハ半氏乃至一氏葉ハ一氏乃
至二氏一日ノ量トス極量ハ四氏上記ス

三

〔支那名〕

佛 花

頗 茄

悶 那 羅 草

風 茄 兒

悶 茄

悶 那 羅 草

漫陀羅ハ法華經曰佛說法天雨漫陀羅花ト蓋シ
梵語ナラン此品ハ野生アリ又春時種チ下ス者
アリ葉ノ形チ茄葉ニ似テ刺無ク五ニ生シ邊ニ
三或ハ五ノ尖アリ色碧ニシテ高サ二三尺枝ノ
形モマタ茄ニ同シ晚夏初秋ノ間枝葉ノ叉股ニ
白花チ開ク形チ牽牛花ノ如クニシテ長大端ニ
五尖アリ其本ハ箇ニメ長サ三寸許花朝開キ夜
合シテ後實ヲ結フ大サ一寸許橢圓ニシテ茄ノ
如シ外面ニ丁拐アリ内ノ小子ハ圓扁ニシテ黒
色褐ヲ帶晚秋ニ至テ根苗共ニ枯ル

合シテ後實ヲ結フ大サ一寸許橢圓ニシテ茄ノ
如シ外面ニ丁拐アリ内ノ小子ハ圓扁ニシテ黒
色褐ヲ帶晚秋ニ至テ根苗共ニ枯ル

臭素加里ハ其性「ブローム」ト「カリ」トノ結合ニシテ

臭素加里一名フロームカリ

水及ヒ酒精

○臭素加里ハ其性「ブローム」ト「カリ」トノ結合ニシテ
白色ノ透明ナル殻子状ノ結晶體ナリ水及ヒ酒精
溶消シ易シ近年醫藥ニ供用ル者ナレトモ諸家

ノ試験チ歴テ効力ノ尤モ廣チ知ルコチ得タリ敢

テ異説チ論述スル者ナク咸ク活用萬化チ辨明ス

ルノミ然レトモ諸説チ枚舉スルニ遑アラス依テ

効用ノ概ヲ摘載ス此品ハ直ニ知覺運動神經ノ力

チ麻痺セシメテ終始トモニ亢奮ヲナサス單ニ脳

ニ通スル反射機能チ主ル神經チ麻痺セシム中量

チ與レハ反射機能ヲ鈍ス大量ヲ與レハ機能チ閉

遮ス

〔建體作用〕ヤコ、ロム法〔小量八氏乃至内服スルトキ

ハ舌上ニ苦味チ覺ヘ胃ヲ刺戟シテ消化チ盛ニス
故ニ胸次舒テ飲食乍チ進ミ欲ル所ニ充サル如シ
反復シテ用レハ咽喉ノ反射運動ノ感覺チ鈍ス故
ニ咽喉鏡チ用ルニ舌根ニ觸トモ敢テ噎ハス脈度
減退シ血壓反テ増シ依テ尿量チ多ス
〔中量至三十六氏乃〕此量チ與ルトキハ反射機能ノ麻鈍
ハ前量ヨリ一層強ク骨節緩怠身體倦怠シ力乏ク
起止スルニ懶ク生殖器ノ機能モマタ鈍クス故ニ
男子ハ春情躁ク玉莖痿トス女子ハ經水ヲ減ス

〔大量一弓半弓〕此量チ與ルトキハ反射機能耗悴シ

咽喉ニ物チ抵觸スルトモ更ニ感セス皮膚ノ感覺

ハ人毎ニ異同アレトモ概化鈍クス諸筋ノ機能縱

ミ陰器瘻ヘ神思胃昧視聽トモニ爽ナラス頭部厥

重シ尋テ睡ヲ催シ渾身ノ溫度降下ス

〔醫事効用〕ヤマヒアル人臭素加里ノ効用ハ反射機

能ヲ鎮靜スルチ主トル藥トス

〔一〕エビレフシ一癇ハ其起形ヲ以テ名クル者ニシ

テ其原因種々アリ此品ハ腦ノ「ポンスハロリー」ノ

邊ニ障碍アリテ反射機能亢進スルニ因テ起ル者

チ治ス然レトモ一回與テ全愈スル者ハ稀ナリ或

ハ病勢チ緩慢ニシ或ハ病發ノ期ヲ延テ尋漸痊安

スル者アリ一説ニ小量チ數回與ルトキハ反テ過

ニ其根チ刈テ瘻可スト云フ

用量ハ一回一又ースクルベルハ或乃至二又チ一

日一二回ニ與フ

〔二〕舞踏病此症モ又反射機ノ亢進ヨリ起リ一歳ヨ

リ七歳マデノ兒ニ發ル者ニシテ幸ニ鬼錄チ免ト

六

雖 いへど 難治 かをりがなき の症 あやう トス

用量 あよりやう ハ 一回 あい 三氏 さんじ 乃至 あい 五氏 ごじ 一日 いち 三回 さんかい 與 あた フ

(三) 生殖器反射機亢進スル症ニ統テ効アリ婦人崩漏日久シテ止ザルニ尤モ効アリ此症ハ反射機ノ亢進ト子宮内ノ筋織維及ヒ小動脈ノ弛緩スルトニ因テ起ル者ナリ此品ハ動脈ノ血壓チ隆ニスルニ似タレトモ其効ハ脈管運動神經チ刺衝シテ脈管チ收縮セシムルニ依テ血壓ヲ隆ニスル如クナラシムレトモ敢テ増加スルニハ非ス唯弛緩スル

(四) 子宮ノ血管チ收縮スルチ以テ經血崩下スルチ止ム用量 あよりやう ハ 一回 あい 十氏 じゅうじ 十五氏 じゅうごじ 乃至 あい 二十氏 じゅうじ 一日 いち 二回 さんかい 與 あた フ

淋病小便點滴短澁且茲中痛ミ反射亢進スル機ニ乘シ睡中ニ陽道縱挺シ爲ニ醒回シテ收ラス堅臥シテ收了セント欲レバ還テ縱挺チ倍シ睫交ルコト能ハサル者ニ中量チ臥ニ臨ノ前半時或ハ一時ノ頃ニ其半チ服シ牀ニ投シテ又半チ服スル片ハ睡裏縱挺ノ憂ナク熟寢ス又反射機亢進ニ因テ

(五) 喉頭ノ刺衝機疾敏ニシテ咳スル者或ハ小兒百
のんどきしつくのはめらきをんどせきものあるひこゑひやく

日咳チ主ドル

用量ハ一回二仄乃至四仄一日三回與フ此量ハ多
ふよりやう
きい
どあた
このりやう
をほも

ト雖モ小兒ニ與テ妨ナク反テ奇効チ奏ス
レバど こども あらへ さまたげ かへつ きめ そう

反 射 機 能 ノ 先 進 ニ ヨ ツ テ 発 ル 喘 息 ヲ 治 ス 他 ノ

原因アツテ發ル者ハ治セズ

用量ハ一回十氏乃至一又チ一日三回與フ

あよりやう
あいし
あた

A HISTORY OF THE AMERICAN PEOPLE

咽 喉 ニ 知 覚 疾 敏 ノ 憂 ア ツ テ 藥 汁 吞 噫 シ 難 キ 者 のんぢ ちかく きるどひ うれへ くそりのみくたし かな その

ハ 咽喉鏡 ナ 用ルニ 便ナラシムルニハ 中量ナ 用
あんこうきやう ルもあや べん ナラシムル ニハ ちうりやう ルもあや

其機子
鉢麻セシメテ
旗術一塊シム然レトモ
め瞑

山平久
ん田
き
あが
二
二
二
古
あどを月 やる
どむ
ほん
ちや
さ
にわの

平野の風景

用
量
よ
う
り
や
う
ハ
一
回
一
又
ツ
、
二
三
回
頻
々
服
く
つ
ま
け
て
か
く
を

惡阻胸中憤悶四肢沈重頭目昏眩
つわりにてむねをやくしてあしめるをもくめまいをあくらみシ食臭藥氣チ
くひそのくをものにはひ

コトナ 悪ミ 嘔吐甚ク 水穀トモニ 口ニ 入コトナ
くろ はらはだしくあつた「その」

阻テ延綿日ナ經テ死ニ至ル者アリ。昔時ヨリ衆醫

技テ馨スト雖モ紀綱ナク手テ拱テ斃チ待ニ至シ

力カ近時此症ハ反射機能ニ因テ發スル者ニシテ其

機能チ鎮靜スルハ此藥ノ主專ナルコトチ發明セ

シヨリ死ニ瀕スル者ナシ用量ハ多キヲ要セス

用量ハ一回五仄乃至十仄一日三回食前一二時ヲ

隔ヘダテ與ベシ服後時間チ隔ス食スルトキハ効ナシ

婦人毎晨起後涎沫又水飲チ吐スル者ニハ此ノ

溶液チ枕邊ニ備ヘ覺ルニ隨テ頓ニ服セシム食テ

後ニ嘔スル者ニハ食前二服サシムベシ或ハ消化化

機チ補佐スル効アリ或ハ貧血症ニシテ飲食消化

シ難キ者ニナトロント合用シテ或ハ單用シテ胃

ノ疾敏鎮墜シ消化チ盛ニシ能ク食チ進ム

用量ハ前ニ照スベシ

貧血ノ爲ニ月事期ヲ愆ル者又過多アル者ニ常

ニ鉄劑チ與ヘ其經斯將ニ近キニアル頃ニ此藥ヲ

與ベシ又他藥チ配シ與ルモ妨ナシ

用量ハ前ニ照スベシ

貧血ノ爲ニ月事期ヲ愆ル者又過多アル者ニ常

ニ鉄劑チ與ヘ其經斯將ニ近キニアル頃ニ此藥ヲ

與ベシ又他藥チ配シ與ルモ妨ナシ

用量ハ前ニ照スベシ

葎草

忽布

粉 留怖力

捏

コレハ元質ノ名ニ似

ス

力 捏

タレトモ元質ニ非

ス

○葎草

ハ野生スル宿根ノ蔓草ニシム其實ニ採テ粉未

トナス

ナ「ルフリ子」ト云又一説ニ花中ニアル黃色

ノ細粉

ニシテ香氣竄烈味峻苦ノ品ナリ其花ナ毛

篩

チ以テ籬過シテ得ル所ノ粉末ナリト云

「ルフリ子」ハ麻醉ノ効緩ニシテ且ツ「アルコール」ニ

苦味

チヨク混和シ味ナミニスル質アリ故ニ麥酒

節

チ以テ籬過シテ得ル所ノ粉末ナリト云

「ルフリ子」ハ麻醉ノ効緩ニシテ且ツ「アルコール」ニ

苦味

チヨク混和シ味ナミニスル質アリ故ニ麥酒

造釀ニ用ニ

〔健體作用〕

ヤマヒムナルキ人ニ中等ノ量チ服スルトキハ

口舌苦味

チ覺ヘ唾液ノ分泌モマタ熾ニシテ胃ニ入テ温煖

チ壯興シ胃液

ノ分泌モマタ熾ニシテ胃ニ入テ温煖

胃部ニリ小腹

ニ温氣チ生ス多量チ用ルトキハ

覺神經ノ機能又脳

ノ機能鍾ク諸筋ノ機關モ亦知

ク神思胃昧四肢解

怠スレトモ散テ頑麻セス須臾

ニシ常ニ復ス麻醉ノ効力

ハ阿片印度大麻等ニ類

似スルト雖モ催睡ノ効

ハ弱ク少ク睡ナ促スノミ

十

メハ弱ク少ク睡ナ促スノミ

(醫事効用) ヤマヒアル人生殖器ノ諸患男子陰莖縱挺

及ヒ遺精女子月事過多及ヒ期チ愆ル者等ニ從昔

ハ使用セシカ現今ハ他ニ對症藥アルチ以テ更ニ

廢棄ス

用量ハ一回三匁乃至十六匁チ與フ

○忽布製劑ナラヒニ皇國支那ノ說ハ第五號ニ

載ス

社長芝大助

纂輯長松本操

印刷人三郎俊彥

東京第四大區六小區池之端仲町廿三番地
錦袋圓 勸學寮内

發賣所 櫻南社

毎月六回發兌一冊定價金五錢○一ヶ月分前金二十七錢○三ヶ月分前金
七十七錢○東京府內配達ハ郵便稅不申受府外ハ郵便稅申受候

賣

東京銀座二丁目壹番地

精錡水本舗

岸田吟香

東京通り油町七番地

金銀縫針問屋

池田藤兵衛

捌

中仙道鴻ノ巣驛

書肆

長島爲一郎

所

東京上野元黒門町廿六番地賣藥調製所

濟世堂

○今般第一號發兌仕候處文體ニ拘ラス少年輩ニモ
讀易キ様フリガナ仕ベク旨諸君ヨリ御懇切ニ仰
セ下サレ社長始メ一同難有厚ク御禮申上候即第
二號ヨリ仰セ下サレ候通ニ改正仕候間尙御註文
ノホド伏テ奉願候頓首